

「多媒体利用による本学の教材の研究と開発」

- 大阪府下の民家 -

研究年度・期間：平成9年度～平成10年度

平成9年度

研究代表者：藪 亨
(教養課程 教授)

研究ディレクター：田中 敏雄
(教養課程 教授)

共同研究者：吉村 堯 豊原 正智
(教養課程 教授) (芸術計画学科 助教授)
山形 政昭 大橋 勝
(建築学科 助教授) (芸術計画学科 講師)
木原 俊哉
(音楽教育学科 講師)

研究補助者：渡辺 力也
(芸術計画学科 副手)

平成10年度

研究代表者：藪 亨
(教養課程 教授)

研究ディレクター：田中 敏雄
(教養課程 教授)

共同研究者：豊原 正智 山形 政昭
(芸術計画学科 教授) (建築学科 教授)
木原 俊哉 大橋 勝
(音楽教育学科 助教授) (芸術計画学科 講師)

研究助言者：吉村 堯
(元 教養課程 教授)

研究補助者：池田 充 渡辺 力也
(芸術計画学科 副手) (芸術計画学科 副手)

研究経過の概要

今年も昨年同様に大阪府下、特に南部に所在する民家(商家、農家)の取材と撮影を継続して行った。まず吉村堯先生から取材先の選定と取材許可をとってもらって撮影日時を決定する。第一回目は平成10年9月10日に行った。まずはじめに降井家(重文・泉南郡熊取町)に行き書院の外観・内部の撮影とともに御当主から建物についての聞き取りをする。中家は財団法人で熊取町が管理しているので、外観・室内とも自由に撮影することができた。さらに、同じ熊取町の七里本家へ行く。ここは住まいなので外観だけを撮影した。次に奥家(泉佐野市)へ行く。ここも建物の外観だけを撮影する。次に広海家(貝塚市)に行き、建物の外観と土間・室内を撮影する。ここでも建物をお守りしている人から聞き取りをする。次に利斎家(貝塚市)に行き、外観と室内を撮影する。御当主から聞き取りをする。堺市に移動して和田家住宅を撮影する。ここでも聞き取りをする。

二回目は2月3日に行った。この日は大学の付近を中心に取材した。はじめは富田林市の寺内町の旧杉山家住宅(重文)で、外観・土間・室内の撮影を行う。この家は歌人石井露子の実家でもあり、土蔵を改装した資料室も撮影する。さらに寺内町に残っている旧家中村家・南葛原家などの他の民家や古い街並みを撮影する。また寺内町から少し離れたところに所在する南葛原家の洋館の別荘も外観のみを撮影する。最後に吉村堯先生の住宅でもある吉村邸を撮影する。吉村先生御自身の案内で、外観・土間・室内を撮影する。

平成9年、10年にわたる大阪府下の民家の撮影は終了した。当初の計画通りほぼ撮影することができた。そして2月25日に共同研究者が集合してビデオの試写を行い、映像教材としての構成方針を検討した。

研究成果について

古い民家は現在、生活習慣や環境の変化、行政の土地有効利用指導等のもと壊されたり改築されたりして、昔の姿を失いつつある。そのことを惜しむ気持ちからこの研究は始まったわけだが、平成9年、10年と2年間にわたる民家の撮影と調査によってさらにそのことを実感することができた。実際に古い民家が朽ちていくところを撮影することができたし、今は住んでいなくてこれから取り壊される可能性の高い民家も映像で残すことができた。

対象地域 - 大阪府南部（中・南河内・泉北・泉南）の民家から、大阪市平野区を北端とし、泉南郡熊取町を南端とする範囲の内から、町家と農家計23件を対象として抽出した。

《国指定重文民家8（町家3、農家5）大阪府指定文化財2（町家1、農家1）を含む》

全般的傾向 - 内部まで調査できた民家の殆どは客室部を持つ上層民家で、地域ごとの特殊性はさほど目立たず、むしろ家ごとの意匠・構造に顕著な個性が見られた。また対象外とした民家の中にも、昔の面影を色濃く残したものや殆ど改装の跡を意識させない工夫を凝らしたものも意外に多く残っていたが、惜しまれながらもやむを得ず取り壊されたものもあり、現代風住宅群に変貌した集落の中に取り残されたように古風な民家が残る例の方が、圧倒的多数であったことは、時の流れの生み出す必然的成果と見る他ないのであろうか。

平成9年、10年の2年間で撮影した民家

藤井寺市	今仲家（外観）、松村家（外観）
狭山市	吉川家（外観、室内）
羽曳野市	銀屋（外観、船板壁）、吉村家（外観、室内）、松村家（外観、室内）
松原市	西川家（外観、室内）、中山家（外観、室内）
相原市	三田家（外観、室内）
大阪市	奥田家（外観、室内）
堺市	高林家（外観、室内）、山口家（外観、室内）、和田家（外観、室内）
熊取町	降井家（外観、室内）、中家（外観、室内）、七里本家（外観）
泉佐野市	奥家（外観）
貝塚市	広海家（外観、室内）、利齋家（外観、室内）、寺田家（外観）
富田林市	旧杉山家（外観、室内）、中村家（外観）、木口家（外観）、南葛原家別荘（外観）

以上当初のほぼ予定通りに撮影することができた。今回も吉村堯先生の指導と渉外によるところが多かった。予定通り撮影が行われ、外観・室内・調度品等古い民家の機能性・意匠性の面白さを映像におさめることができた。この映像資料を元に民家を紹介する教材を制作した。

研究の反省

ほぼ予定通りの件数の民家の撮影を終えることができた。ただ撮影には取材先の事情もあり、撮影不可のところも多数あった。民家の外観は全て撮ることができたが、内部については住居として使用しているものは撮影許可の取れないものが多く、完全とは言えない。また、撮影に重きを置いてきたので、建築の構造や様式についての歴史的調査に関しては文献調査等が不十分なところがあったと思う。この点については、ビデオの編集段階でナレーションやスーパーで補っていく。またかなりの強行スケジュールで取材を行ったため、細かな撮り残しがあったのではないかと多少の不安は残っている。しかし学生が民家に対して興味を抱くための導入口としては、魅力ある教材ができたのではなかろうか。今後の課題としてはこの教材を用いることによってどのような教育効果が得られるかを確認していくことだろう。この事に関してはまた次の機会としたい。